

環境都市常任委員会所管事務調査報告書

1 日 程 令和6年5月13日（月）～15日（水）

2 調査地及び調査項目

- (1) 兵庫県姫路市
姫路市経済振興ビジョンについて
- (2) 滋賀県高島市
地域雇用の創造・活性化の取組について
- (3) 愛知県新城市
新城市雇用創造協議会の取組について

3 出席者

委員：大野 祐司、田中めぐみ、伊藤 大輔、吉村 慶一、
風間 正子、高橋 文雄、阿蘇 佳一

執行部：磯崎 篤

議会局：齋藤 雄一、井上 裕大

兵庫県姫路市（5月13日）

1 調査項目

姫路市経済振興ビジョンについて

ア 策定の主旨

姫路市では、地域経済の安定化と持続的な発展を目指し、平成 27 年（2015 年）に「姫路市経済振興ビジョン～姫路市ものづくり戦略～」を策定し、各種産業施策を展開している。

令和 3 年度（2021 年度）から市の最上位計画である新たな総合計画の策定に合わせて、市内経済界関係者や有識者等の意見等を踏まえつつ、新たな経済振興ビジョンを策定。

新ビジョンはコロナ禍により影響を受けた地域経済の復興やデジタル改革やグリーン社会の実現など成長力強化につながる幅広い分野の経済振興に取り組むためのビジョンとする。

ビジョンの中で、分析編、戦略編に大きく分けた中で、検証しながら計画を進めている。

イ 主な質疑

Q：労働者不足にどう対応しているか。

A：地元企業が複数社集まって行う企業説明会などを開催している。

Q：商店街などの空き店舗の状況はどうか。

A：空き店舗が多く、なかなか埋まらないのが現状。

Q：人口規模がもっと多ければと思うことはあるか。

A：例えば、人口100万人いればもっとできることが増えるのではと思う。
が、現状に向き合っていきたい。

Q：学生への取組はどうか。

A：学生向けの地元企業の紹介などは今後やっていきたい。

Q：商工会議所との連携はどうか。

A：現状、なかなか難しいところもある。

Q：近隣自治体との連携はどうか。

A：播磨地域という 8 市 8 町で魅力発信を行っている。

滋賀県高島市（5月14日）

1 調査項目

地域雇用の創造・活性化の取組について

ア 事業概要

雇用機会の不足している地域において、地域の関係者の創意工夫や発想を活かした雇用創出の取組を国が支援するもの。

地域の雇用失業情勢は、地域ごとに異なる産業構造や地理的な要因など、それぞれの地域が有する様々な特性によるものであり、各地域において効果的に雇用創出を図るためには、これらの特性を踏まえた地域の関係者の創意工夫や発想を活かした対策を実施する必要がある。

上記の国の補助金を活用し、事業に取り組んでいる。

イ 主な質疑

Q：アンケートを取っているが、回収率が高いのか。

A：なかなか協力してもらえないため、回収率が高いとは言えない。

Q：具体的な成果はどのようなか。

A：例えば、琵琶湖周辺で特産品を活用して商品の販売を行った。

Q：事業の効果はどのように感じているか。

A：実績のとおりアウトプット目標値を大きく超えているため効果は確実にあると感じている。

Q：若年層の市外流出についてどうか。

A：卒業後すぐに、市内企業に勤めてもらうのは、正直難しいと感じているため、都心部から戻ったときに地元の企業を知っていて、勤めてもらうことが大切だと感じている。

Q：農家の後継者不足についてどうか。

A：農家の後継者がいない問題は深刻だと認識しているが、個人でやっている方が多いため、マッチングが難しい。

Q：駅前のにぎわいはどうか。

A：今後、リゾートホテルの開業を予定しているため、期待している。

Q：林業の働き手はどうか。

A：林業で働くことを希望している方は極めて少ない状況。

愛知県新城市（5月15日）

1 調査項目

新城市雇用創造協議会の取組について

ア 事業概要

新城市雇用創造協議会は厚生労働省からの委託事業として、令和4年10月3日に発足し、「製造、農林、観光、福祉」の4分野を重点雇用創出分野とし、企業と求職者に向けた様々な取組を実施している。

また、求人説明会などを定期的に行い、セミナー開催情報を随時更新し、マッチング機会の創出にも力を入れている。

「サステイナブルな働き方・暮らし方創出へ！新城市働き方改革プロジェクト」を事業テーマとし、この協議会はスタートした。少子高齢化や人口減少に伴って、新城市の人手不足は深刻化してきている。

そのような中において、あらゆる人材が活躍できる機会を創出するための「働き方改革」を進め、「各産業を担う人材」を育成することで、行政・企業・市民が一体となって維持し続けられるような働き方、暮らし方を支援していくことを目的としている。

イ 主な質疑

Q：福祉分野での雇用状況はどうか。

A：不足しているのに、辞めていく人が多い状況のため、厳しい。

Q：女性の雇用状況はどうか。

A：市内の企業でも積極的に女性の雇用を推進しているため、子育てがひと段落した方の雇用は昔より増えている。

Q：製造業の高齢者雇用についてどうか。

A：企業側が55歳以上の雇用は受け付けていないため、高齢者の活用がうまくいっていない現状。

Q：外国人の人材セミナーの状況はどうか。

A：人手不足の介護人材のセミナーを開催し、マッチングができている部分もあるが、外国人の採用自体に課題が多い。

Q：商工会議所との連携はどうか。

A：立場が違うため、調整が難しい部分がある。

Q：しごと展の反響はどうか。

A：よかったとのアンケート結果が大多数のため、やることに意味があると実感している。

Q：計画の目標数値の根拠はなにか。

A：これまで行ってきた事業を相対的に判断して、目標数値を出しているため、これまでの積み上げを利用している。

Q：人口流出に対する対策はどうか。

A：都心部で働きたいと考える若者が多いため、転出を止めることはなかなか難しいと感じている。